

拡充 オフィス改革プロジェクト

事業のポイント

市職員の「働きやすさ」と「働きがい」を目指し、業務内容に応じた柔軟な働き方の実現や生産性向上等に向けて、市役所本庁舎における執務環境の検討・整備を行う。

事業の内容

- **本庁舎全体のオフィス改革に向けた全体方針策定**
全体設計とフロアごとの詳細設計を行う
- **オフィス改革の先行実施**
来年度以降の全庁リニューアルに向けた課題抽出と効果検証のため、1フロアのオフィス改革を先行実施。

目標と効果

※数値目標年度はいずれもR9年度

- ◆ 業務の効率性や生産性の向上
- ◆ ペーパーレス化
(紙代・コピー代のR5年比半減▲ 1億円)
- ◆ 保管書類の削減等で生じるスペースの有効活用
(スペースの創出20%)

財政・変革局 財政課のオフィス改革 (R5)



事業のポイント

行政課題の解決や新たな価値の創造に向け、生成AI等の先端技術に関する調査研究や実証などを行う。

事業の内容

● 生成AIを活用した全庁的な生産性向上事業

昨年度に実施した生成AIの3実証
(AI市長秘書、AI会計室、AI提案箱)
で判明した課題を踏まえ、安全かつ
効果的な生成AIの活用に向けた実証を行う。

目標と効果

- ◆ 生成AI等の先端技術の実用性を見極め
業務改革の可能性を見出す
- ◆ 先端技術の活用による
職員の事務レベルの向上及び負担軽減
- ◆ 行政課題の解決・新たな価値の創造

昨年度実施した生成AIの実証の例

✓ AI市長秘書官



DXを支える取組

人材育成



統一・標準化対応



拡充

DX人材育成プロジェクト 26百万円

連携協定企業等の協力も得て研修に取り組み、令和5年度から3年間で2,400人の市職員をDX人材として体系的に育成する。

拡充

情報システム統一・標準化推進事業 705百万円

国の法令に基づき、標準化対象となっているシステムを標準準拠システムへ安全に移行するとともに、既存システムとの円滑なデータ連携を実現するための環境を整備する。

拡充 DX人材育成プロジェクト

事業のポイント

連携協定企業等の協力も得て研修に取り組み、令和5年度から3年間で2,400人の市職員をDX人材として体系的に育成し、市政変革を加速させる。

事業の内容

● DX人材の育成

- ・全職員をブロンズ、シルバー、ゴールドの3階層に分けて整理し、求められる能力を明示して、それぞれに見合った体系的なDX研修プログラムを展開する。
(BPR・ローコードツール・データ利活用など)
- ・今年度はゴールドの研修を開始する。

目標と効果

- ◆ デジタル技術を積極的・効果的に活用して業務改善に取り組むよう、職員の意識を変え、能力を高めていく。
- ◆ 市政変革を支えるDX人材の育成
3年間で2,400人 (シルバー+ゴールドの育成人数)
- ◆ 全職員7,000人のDXリテラシーの向上



事業のポイント

国が進める情報システム統一・標準化により、基幹系業務システムのカスタマイズ抑制、システム導入・維持管理費用の削減を図るため、R7年度末を目標にガバメントクラウドを活用した標準準拠システムへの移行を目指す。併せて、従来から整備・運用しているシステム基盤の見直しを行う。

事業の内容

● 標準準拠システムへの移行

基幹業務（計20業務）について、R7年度末を目標に標準準拠システムへの移行を目指す。

R7年度末までの移行が見込まれるシステム
(下表の橙色)

住民基本台帳	選挙人名簿管理	就学
戸籍	戸籍の附票	印鑑登録
固定資産税	個人住民税	法人住民税
軽自動車税	国民年金	国民健康保険
後期高齢者医療	介護保険	障害者福祉
生活保護	健康管理	児童手当
児童扶養手当	子ども・子育て支援	

- ガバメントクラウドとの接続
- クラウド共通基盤の整備

目標と効果

- ◆ R7年度末までに標準準拠システムへの移行を目指す
- ◆ システムの統一・標準化を図ることで、データ移行やシステムの乗り換えが容易となり、ベンダーロックインが解消される
- ◆ 法令改正等のシステム改修に係るコスト削減を図る



地域のDX

新規 地域DX推進プロジェクト 30百万円

デジタルを活用した地域の課題解決や魅力向上の実現にむけて、地域、市民、企業を幅広く巻き込みながら、新たな行政サービスをユーザー視点でデザインしていくための基盤づくりに取り組む。



目標と将来展望

- ◆ 地域・市民・企業の共助による新しいデジタルサービスの仕組みをつくる
- ◆ 行政だけでなく、民間のアイデア・技術などの資源も活用しながら、オープンイノベーションを起こしていく
- ◆ 子育てDX等、個別DXの取組をトータルデザインする

北九州DX推進計画の改定について

新ビジョン 第3章「彩りあるまち」の実現 1 彩りある「空間」をつくる

(3) デジタルによる「迅速で便利・快適な環境」づくり

行政運営において、供給者視点から利用者視点への転換を図り、革新的なデジタル技術などを活用して、行政サービスや市役所の業務を抜本的に見直すDXを推進します。推進にあたっては、誰もが安心して必要とする行政サービスを利用できるよう、多様化する市民や企業等のニーズに迅速に対応し、快適・便利な環境づくりに取り組みます。

市政変革推進プラン 第2 直面する課題への対応／第3 市政変革の具体的な取組

スマらく



挑戦を続ける機能的・機動的な市役所づくり

◆スマらく区役所サービスプロジェクト

◆BPRの推進

◆DX人材の育成

◆オフィス改革



北九州DX推進計画の改定

改定の目的

新ビジョンと市政変革推進プランの策定、DXをとりまく技術や環境の進展、国の自治体DX推進計画の改定、他自治体の動向等をふまえ、当初計画より一年前倒しで第二期計画を策定する。

主な改定内容(案)

新ビジョン「デジタルによる『迅速で便利・快適な環境』づくり」の反映

市政変革推進プランに明記された取組について各論に反映
(スマらく区役所サービスプロジェクト、オフィス改革等)

本計画策定後にスタートした取組の追加

北九州DX推進計画の改定スケジュール（案）

令和6年
7月～8月頃

北九州市情報化アンケート実施

令和6年
9月～12月頃

素案作成

◆ 第7回懇話会

令和6年
12月頃

パブコメ実施

令和7年
3月頃

改定完了

